

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-11C	20-045	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Smoking, alcohol consumption, and cancer: A mendelian randomisation study in UK Biobank and international genetic consortia participants 喫煙と飲酒とがん：UK バイオバンクと国際ゲノムコンソーシアムの被験者におけるメンデル式ランダム化研究		
<b>執筆者</b>		
Larsson SC, Carter P, Kar S, Vithayathil M, Mason AM, Michaëlsson K, Burgess S.		
<b>掲載誌</b>		
PLoS Med. 2020 Jul 23;17(7):e1003178. doi: 10.1371/journal.pmed.1003178. eCollection 2020 Jul.		
<b>キーワード</b>	<b>PMID</b>	
アルコール、がん、喫煙	32701947	
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b> メンデル式ランダム化研究により、喫煙と飲酒の、19 の臓器別のがんと因果関係を調査することを目的とした。</p> <p><b>方法：</b> ヨーロッパ系集団を被験者としたゲノムワイド関連研究コンソーシアムにおける、喫煙（一度でも定期的に喫煙）割合および飲酒量/週それぞれ1標準偏差上昇に関連する遺伝子変異と肺癌、乳がん、卵巣がん、前立腺がんに対するオッズ比[OR]および95%信頼区間[CI]を算出した。さらに、UK バイオバンクの、2006年から2010年の調査時に37歳から73歳だった367,643人のヨーロッパ系集団における19の臓器別がんの遺伝的関連を推定した。ボンフェローニ補正されたp値0.0013未満を統計的有意とした。</p> <p><b>結果：</b> 喫煙に対応する遺伝的素因は、国際肺癌コンソーシアム(OR 1.80; 95%CI 1.59-2.03; p = 2.26×10<sup>-21</sup>)とUK バイオバンク(OR 2.26; 95%CI 1.92-2.65; p = 1.17×10<sup>-22</sup>)で肺癌と関連した。食道がん(OR 1.83; 95%CI 1.34-2.49; p = 1.31×10<sup>-4</sup>)、子宮頸がん(OR 1.55; 95%CI 1.27-1.88; p = 1.24×10<sup>-5</sup>)、膀胱がん (OR 1.40; 95%CI 1.92-2.65; p = 9.40 × 10<sup>-5</sup>)、頭頸部 (OR 1.40; 95%CI 1.13-1.74 ; p = 0.002)、胃がん (OR 1.46; 95%CI 1.05-2.03; p = 0.024) で正関連を認めた。前立腺がんとは負の相関が認められた (ゲノムコンソーシアム OR 0.90; 95% CI 0.83-0.98; p = 0.011、UK バイオバンク OR 0.90; 95% CI 0.80-1.02; p = 0.104)。飲酒に対する遺伝子素因はがん全体と関連がなかった(n = 75,037 cases; OR 0.95; 95% CI 0.84-1.07; p = 0.376)。肺癌との関連は国際肺癌コンソーシアム(OR 1.94; 95% CI 1.41-2.68; p = 4.68 × 10<sup>-5</sup>)で有意な関連を認めたが、UK バイオバンク(OR 1.12; 95% CI 0.65-1.93; p = 0.686)では認められなかった。飲酒と他の臓器のがんにはいずれも統計的に有意な関連は認められなかった。</p> <p><b>結論：</b> 喫煙は肺、頭頸部、食道、胃、子宮頸部、膀胱のがんの危険因子である可能性が示唆されたが、飲酒とがんのリスクについては明らかな関連はなかった。</p>		